



県がすすめている取り組みを紹介します！

## ふるさとを支える「土木」

県では、県内の産業や暮らしを下支える社会基盤の整備・充実を図るとともに、災害に強い県土づくりを進めています。みちづくり、みなとづくり、まちづくり、住まいづくりなど、多岐にわたる「土木」についてご紹介します。

### 土木の仕事とは

県民の皆さんの生活・産業・交流・安全安心を支えるため、道路・港湾・河川の整備、災害復旧、砂防、ダム建設、住宅整備、トンネルや橋の維持管理などを行うのが、「土木」の仕事です。

特に、県政の課題解決につながる「交通ネットワークの強化」、「防災・減災対策」、「インフラの老朽化対策」、「建設業における担い手の確保・育成」について、重点的に推進しています。



島原道路(諫早市)

### 「BUILD NAGASAKI DREAM～長崎を、ツクル、人になる。～」動画配信中！

建設業界で活躍している若者の生の声を通して、仕事のやりがいや、先端技術を活用した働き方の変化など、県内の建設業の魅力を紹介する動画を配信しています。ぜひご覧ください。



厳原港(対馬市)

### 土木の日をご存じですか？

毎年11月18日は「土木の日」と定められており、今年度は、「ドボクとボクラ ～知らないところで繋がっている～」をテーマに、土木技術や土木事業に対する理解を深めていただくためのイベントを開催します。

#### ドボックフェア2021

昨年に引き続き、ウェブサイト上で実施します。写真や動画を使い、普段は見る事ができない土木の現場などを楽しくご紹介します(11月15日公開予定)。

#### その他の関連イベント

県内各地で、土木に関するイベントを予定しています。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

「土木」の2文字を分解すると「十一」と「十八」になるから11月18日なのね！



ほうりよくえん  
宝緑園  
(佐々町)



お話を伺ったのは  
ほうもつまさよし  
寶持雅祥さん

### 父が山を切り開き 50年前に創業

1971年、父の秋次が佐々町の標高350mの牟田原に山を開墾し2ヘクタールの茶畑を造ったのが始まりです。その後、製茶工場を建設し、徐々に規模を拡大し、現在は4ヘクタールの畑で生産を行っています。私は高校卒業後、静岡県でお茶栽培や販売について学び、17年前、24歳の時に帰郷。後継者として、両親と妻と共にお茶の栽培から製茶、販売までを行っています。



牟田原に広がる畑。基本は家族経営だが、農繁期には地域の方の力を借りている



有機栽培で元気に育つ茶葉

### 有機JAS認定を取得、 エコファーマーにも認定

こだわりは父の代から続けている無農薬・無化学肥料栽培で、除草剤も使用していません。有機質肥料(菜種油かす・魚かす・米ぬかなど)を用いて、山野草を茶園に敷き、さらに地元の完熟堆肥を投入して肥えた土壌環境をつくっています。うちの畑でよく見るモンシロチョウは、農薬や化学肥料を使っている畑には飛んできません。宝緑園のロゴマークは、有機栽培の証であるモンシロチョウを中心に、お茶栽培に必要な太陽と土、水、そして家族の絆を表現したものです。



県内で頑張っている企業や人に  
エール(応援)を送ります！

### 佐々のお茶の発展と、 お茶文化の継承

父は長年、佐々町の茶業部会の会長を務めており、私も指導農業者、佐々町農業委員、県北グリ茶研究会の会長などを務めています。佐々のお茶をまずは地元の人に親しんでもらいたいという思いから、毎年秋に福祉施設や学校、保育園などにうがい用のお茶を寄付しているほか、県北グリ茶研究会では、高校生のマナー講習の一環としてお茶の入れ方教室などを開催しています。お茶のおいしさとともに、日本独特のお茶の文化も伝えていけるよう頑張っています。



海外向けも意識して、パッケージを一新

畑に飛んでくるモンシロチョウは  
有機栽培の証。  
安全・安心で、おいしい佐々のお茶を  
広めていきたい。

